

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 7 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 - 2011

課題番号：20520066

研究課題名（和文） 「天領」の学問・文化・思想構造に関する研究

研究課題名（英文） Study on structure of learning, culture and thought of "the Shogunate government controlled area "

研究代表者

高橋 章則 (TAKAHASHI AKINORI)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10187990

研究成果の概要（和文）：

江戸時代に「天領」があった地域（例えば、現在の福島県域や岐阜県域・長野県域など）には、代官所役人と関係を持った住民の子孫が存在し、彼らの元には江戸期に刊行された「書物」が所蔵されている。その「書物」の多様性・先端性は、かつて代官所周辺で展開した「知」のありようを正確に物語る。地域文化をリードしたその広義の「学問者」たちは文化の中心地である江戸に直結する代官所の役人ともども「書物」に依拠した文芸や思想などの文化面での最前線を形成していた。

研究成果の概要（英文）：

In the areas (e.g., including the current Fukushima, Gifu and Nagano prefectures) where there was "an Imperial demesne" in the Edo era, the descendants of a chief administrator place government official and the related inhabitants exist, and they possessed "a book" published for the Edo period. The variety and the up-to-dateness of the "book" shows a state of "the intellect" precisely that ever unfolded around a chief administrator place. "The study interrogators" in the wide sense that led the local culture formed the battle front on the culture side such as literary arts or the thought that depended on "a book" with the government official of the chief administrator place connected directly with Edo that was a center of the culture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：天領・代官・文化・学問・地域・狂歌

1. 研究開始当初の背景

研究担当者は、2007年7月刊行の『江戸の転勤族—代官所手代の世界—』（平凡社）に

において、江戸時代における「天領」（幕府の中・下級実務官僚である郡代・代官による直轄支配地、郡代領・代官領の総称）の学問と文化の構造とその展開を明らかにした。

その際に重点を置き利用したのが「狂歌」に代表される江戸後期に発展した文芸であり、そうした文芸領域の資料を地域の歴史を叙述する際の史料として活用する方法を書中で提示した。

というのも、全国に点在した「天領」は、郡代・代官とその少数の下僚たち（手附・手代）が実務的な能力を発揮しつつ支配した、いわば「文官支配地」であった。この「文治」の傾向は江戸時代後半の寛政期から強まったものである。

「天領」では役所の人員構成から言っても武断的な支配は求めようがなく、地域住民との協調が支配の前提をなした。そのために、次のような「文治」に対応するような文化的な背景が共通に存在した。

(a) 代官所役人は地域の知識人との接触を積極的に持ち、政治情報以外にも様々な情報を得ていた。また、学問をもって任官した下級武士である代官とその配下の手代とは、自己の学問的・文学的・芸術的営為を続けるために、地域の知識人との接触を積極的に持った。

(b) 一方、地域の知識人も、文化の先進地たる江戸との関係を維持することを欲した。その関係保持の方策として、転任の多い代官所役人との交流を重視し、彼らを通じて各種の学問や文化を享受した。そして、なかには、そこで培った「知」と「人脈」とを端緒にして近親者の身分上昇を図る者がいた。すなわち、代官所周辺の町人・農民層の一部には学問、文化を武器に幕府の下僚となるものが現れたのである。いわば学問による身分上昇である。

(c) そして、その代官所役人と地域知識人層との間には、指導的な地位を占めた「学者」（儒学者・国学者・医者など）が複数存在したのである。

従来、そうした「天領」における学問や思想・文化などについての考察の必要性は認識されつつも、体系的な調査は行われていないというのが実状であった。そうした研究史の空白を文芸資料の活用によって打破しようとしたのが前掲書であった。

2. 研究の目的

本研究は、前掲書が論じ、明らかにした「天領」における学問と文化の構造の特色を、幅広い地域調査と資料の入手等によって多角的に再検証し、学説をより確実なものにすることを目的とした研究である。

もちろん全国に展開する「天領」をめぐる学問的・文化的環境を検証し、正当に評価することは、一研究者の短期間の調査研究では困難である。しかし、上に触れたように、「天領」とその周辺地域には類似した学者たちが存在し、彼らは代官所の役人との親和性を有しつつ地域の「知」をリードしていたという共通性があり、現在、観光資源化している、いわゆる「〇〇の小京都」とは、こうした学者たちが形成した学問的・文化的風土を指して用いられていると言っても過言ではない。

本研究では、研究担当者がこれまで主な研究のフィールドとして取り組んできた福島県地域一教多くの「天領」が入り組み代官所間の情報交流が緊密であった陸奥代官支配地一での研究成果を前提とし、それを全国に拡大して考察する。

また一方では、福島県域を論じる際に有効であった地域の思想構造を「折衷学・考証学」「国学」に代表される19世紀に独特な思想の展開史に即して整理するという研究視座を全国に拡大して問うことに課題を据える。

他方、前掲書に示した研究視座では収めきれなかった研究資料（例えば美術資料）などへの検証を試みることによって地域の文化構造への多面的な検証を試みることを研究目的に加える。

なお、研究を進めるにあたっては、近年の歴史研究の一潮流をなす書物文化研究、つまり学問・思想形成の基礎をなす諸種「書物」の入手と享受の実態への検証を導入し、代官所とその周辺に住む広義の「学問者」の「知」の構造を社会史的に考察することに心がける。

以上のみならず、次のような地域社会に対する働きかけを敢えて研究目的に付け加える。

本研究においては、地域に残存する諸種「書物」の歴史的価値を地域に居住する所蔵者たちに周知し、「書物」の有効な保存方法を提示することを重視する。というのも、未だに有効活用されていない史料が地域には存在し、そうした史料の有効性を説くことが現今・将来の史料保存に結びつくと考えからである。

本研究担当者はこれまでフランスのアナール学派の「書物の社会史」と呼ばれる研究領域に関心を持ち、日本に於いてもそうした研究を展開すべく研究領域の提示を行ってきた。その場合に、有効活用されてこなかった既存史料に新たな価値を付与し、その保存への道を示すことが研究の維持・進展に不可欠なのである。

本研究は、地域社会と共に研究史料の再編成と保存とを目指すものであり、それは思想史研究の新たな領域と研究視座の提示につながると思われる。

3. 研究の方法

本研究が採用した研究方法は、大きく(1)史料の収集・調査とそこで得られた史料のデータベース化と、(2)各種文献の読解・検討である。その際の史料とは、歴史資料に限定されるものではなく、文芸史料・美術史料など広範な文化史料である。

そうした史料を調査地域に赴き発見・調査した。また、その史料的な価値・意義を既存の学問領域に照らして再確認するばかりではなく、地域文化の新たな学問領域としての書物文化研究を模索すべく、多様な評価基準を設定した。

もちろん、地域の歴史性・地域文化の独自性などについては既存の自治体史などの記述には見入るべきものも少なくなく、それらの上に新たな知見を付け加えることを眼目とした。

年度による作業上の差違は基本的には無いが、新規に資料を見いだした際には現地に複数回赴くなど、調査に重点を置く研究方法を採用した。

4. 研究成果

本研究が主たる課題としたのは、①代官所に関わる出版物・文献・史料の把握をめぐる基礎的調査であり、②研究成果の公表である。

史料の所在確認とその閲覧、さらには今後の調査の可能性の確認を目的として赴いた主な場所は、福島県伊達市・桑折町（陸奥代官所所在地）を中心とした福島県北部地域であり、南会津地域や新潟県中越地域・上越地域、長野県、栃木県、群馬県にも調査地点を拡大した。

そこでの調査を通じて、学問・思想形成の基礎をなす諸種「書物」の入手と享受の実態への検証の道筋を展望することが可能となった。あわせて、代官所とその周辺に住む広義の「学問者（文化人）」の「知」の多面的な構造を思想史的に考察する際の視点を「出版」行為に即して獲得することができた。

その出版分野のうちで本研究が重視したのは「狂歌」である。というのも、狂歌（特に19世紀の狂歌）は、江戸との繋がりを有する地域の知識人がこぞって制作したものであり、日・中の古典さらには地域的な景物、日常的の些事に至るテーマを幅広くかつ「典拠」をもとに詠んだ。

その際の典拠となったのが江戸を中心に生産された「書物」であり、狂歌は書物に支えられ詠まれた。さらには浮世絵などの出版物も大いに参照に供された。

代官所所在地に代表される地方の拠点地

域にあっては、そうした多様な出版物を幅広く利用する文化人の存在が諸種の資料から裏付けられた。

こうした本課題の研究成果の一部は、出版をテーマとした「書物出版と社会変容」研究会をはじめとした国内の研究会のみならず海外で開催された研究集会で報告を行い、また隣接する研究領域である文学の分野の日本近世文学会などで報告され、論文は国際浮世絵学会に機関誌などにも掲載された。

また、研究成果の一端は『狂歌陸奥百歌撰』（東北文化資料叢書第五集、2010年）という資料集で発表された。

なお、「出版」に着目した本研究課題においては当初から江戸期地域文化人の諸種出版物の享受の実態に注目してきたが、調査・研究の過程で「浮世絵」が射程に収められるようになり、それによって歌川広重に代表される著名絵師と地域文化人との交流などを明らかにすることが可能となり、その端緒が新潟県上越市で発見され（上越タイムスにおける報道参照）、今後の調査課題を形成するに至った。

以上、主たる研究分野「思想史」と文芸領域との関係のみならず美術史との関連に踏み込むことができるようになったこと、「狂歌」を中心に地域文化の実相解明がなされたことなどが本研究の成果の概である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

1) 高橋章則

第4章、第9節「文化」二「狂歌・俳諧歌」、『伊南村史』通史編、査読無、第1巻、P, 832-p, 835
2010年

2) 高橋章則

『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重
浮世絵芸術、査読無、160号、p, 5-p, 25、2010年

3) 高橋章則

江戸狂歌—出版とスクラムを組む文芸—
東アジア出版文化研究『ほしづくよ』、査読無、p, 327-p, 339、2010年

4) 高橋章則

狂歌が結ぶ「知」と地域一名古屋・仙台—
書物・出版と社会変容、査読無、第6号、p, 1-p, 37、2009年

〔学会発表〕（計 7 件）

- 1) 高橋章則
地域社会史の資料としての狂歌
尾張藩社会研究会 11 月研究会、2011 年 11 月
26 日、名古屋芸術大学
- 2) 高橋章則
一九世紀直江津の文化―狂歌・浮世絵を用いた
地域史の再構成―
第 65 会「書物・出版と社会変容」研究会、
2011 年 6 月 4 日、一橋大学
- 3) 高橋章則
「四方側」の分裂―真顔没後に作成された三
枚の名録から導かれること―
第 59 会「書物・出版と社会変容」研究会、
2010 年 10 月 2 日、一橋大学
- 4) 高橋章則
『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重
第 52 会「書物・出版と社会変容」研究会、
2009 年 12 月 5 日、一橋大学
- 5) 高橋章則
四方側分裂―二枚の狂歌合広告が語るもの
―
平成 21 年度日本近世文学学会秋季大会、2010
年 11 月 7 日、関西学院大学
- 6) 高橋章則
江戸狂歌
国際会議 第 6 回 東アジア出版文化に関する
国際学術会議、2009 年 10 月 10 日、高麗大
学（韓国ソウル市）

〔図書〕（計 1 件）

- 1) 高橋章則
狂歌陸奥百歌撰
東北文化資料叢書第 5 集、2010 年、90P
<http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/bitstream/10097/46123/1/kyoukamutu-ba.pdf>

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[URL:http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/](http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/)

<http://www.j-times.jp/news.php?seq=4593>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 章則 (TAKAHASHI AKNORI)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：10187990

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：